

第 章

対象動物の基礎知識

1. アライグマ

(1) アライグマの生物学



【学名・分類】

学名：*Procyon lotor*

分類：食肉目アライグマ科

【原産地】

北米のカナダ南部から中米のパナマにかけての地域。

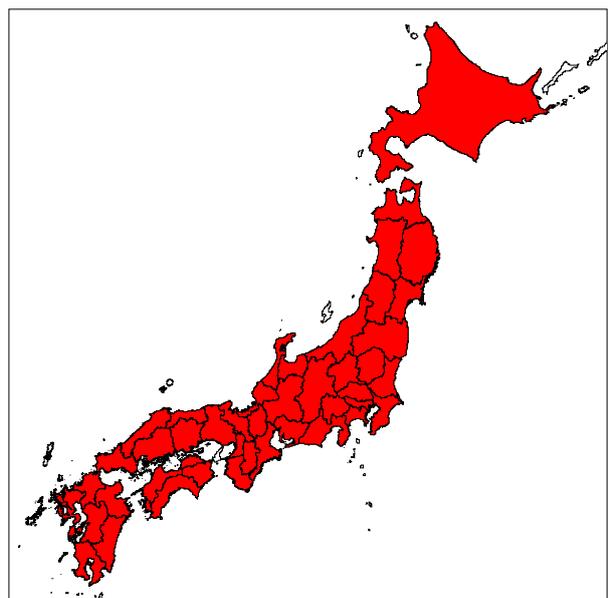
【導入の経緯】

意図的導入。ペットとして輸入され、1970年代に飼育個体の遺棄や放逐によって野外に定着した。昭和50年代に放映されたアニメーション番組がペットとしての人気を高めた。

【国内の分布】

北海道、関東、東海、近畿地方を中心に、連続的な分布が確認されている。

すでに定着が明らかとなっている都道府県は、北海道、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京



アライグマの侵入が確認されたことのある都道府県

都、神奈川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、三重県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、広島県、山口県、香川県、愛媛県、福岡県、佐賀県、長崎県。分布は徐々に拡大しており、上記以外の都道府県でも今後定着すると考えられる。

【形態】

頭胴長 42～60cm。尾長 25～30cm。体重 4～10kg。皮下脂肪のある冬季は 10kg を超えることもある。オスはメスよりも大型になる。明るい灰褐色の体毛を持ち、目の周りには黒いマスク模様がある。尾にはリング状に縞模様があり、黒色のリングが 4～10 本入る。歩



アライグマの四肢の形状

行時につま先から踵（かかと）までを地面につける。そのため足跡は前後に長い形状となる。四肢とも長い 5 本の指がある。後足だけで体を支えて立ちあがることができる。

【繁殖・社会】

一夫多妻制であり、オスは複数のメスと交尾する。オス、メスともに単独生活をし、発情期のみオスとメスのペアが形成される。原産地の北米では年に 1 回繁殖し、おもに 1～3 月頃に交尾、4～6 月に 3～6 頭の子を出産する。日本では夏から秋に出産する個体も確認されており、地域によって繁殖時期が異なる可能性がある。妊娠期間は平均 63 日。通常メスは 1 歳、オスは 2 歳で繁殖可能となる。繁殖に失敗したメスは同じ年に 2 回目の発情をすることがある。なわばりを持たないので、餌条件の良い場所に多くの個体が集まってくることがある。野外での寿命は概ね 5 年程度であるが、10 年近く生きた個体も確認されている。飼育下では 13～16 年生きることもある。

【食性】

果実、野菜、穀類、種子などの植物質が中心で、小型哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、甲殻類、昆虫類、貝類などの動物質もよく食べる。餌の選択肢は幅広く、季節毎に利用しやすいものを採食していると考えられる。そのためか、夏には主に動物質、秋には植物質を多く摂食する。農作物ではトウモロコシ、メロン、スイカ、イチゴなどを食べるほか、家畜用の飼料、養殖されている淡水魚などを食べた例もある。

【生活の特徴】

夜行性で、昼間は樹洞や巣穴、および家屋の屋根裏、作業小屋、廃屋などの中で休息している。木登りや泳ぎが得意である。水辺（河川やため池、湖沼などの周辺）を好み、森林、農地のほか、市街地でも生息できる。市街地ではしばしば用排水路や暗渠を移動経路として利用している。冬眠はしないが、冬には活動量が落ちる。北海道などの多雪地域では、積雪期には雪の少ない河川周辺を主な行動圏としている。行動圏の面積は餌の分布などの季節的な要因によって変動する。

(2) 識別のポイント

【足跡】

アライグマは歩くときに踵を地面に付けるため、類似種のタヌキやキツネに比べ、縦に長い足跡を残す。また指が長く、5本がはっきりと分かれるため、全体の形は人の手形に似ている。指の先端に爪の跡が残ることが多い。前足の足跡は長さ 5.5cm、幅 6cm 程度。後足の足跡は長さ 6.5～8cm、幅 5～6.5cm 程度。水辺で活動することが多いため、水路沿いなどでは足跡を発見しやすい。また、黒い農業用ビニールマルチの上も足跡が残りやすい。



アライグマの足跡

【糞】

アライグマは雑食性のため、食べた餌の内容によって糞の形状も変化する。糞の直径は 2～3cm 程度、長さは 5～18cm 程度である。いくつかの断片に分かれていることも多い。道路沿いや石の上など、目立つところに糞がされていることが多い。細かく咀嚼しないで餌を食べるため、糞の中には動物の骨や昆虫の羽、種子などの植物質の断片が含まれている。



アライグマの糞

【似ている動物】

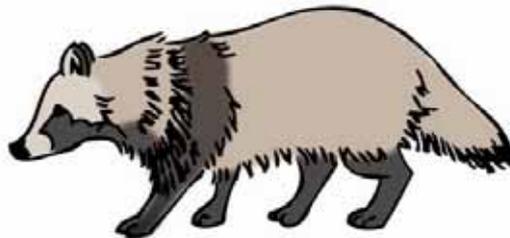
アライグマによく似た動物として、在来動物のタヌキやアナグマ、あるいはハクビシンがあげられる。次頁以降にそれぞれの特徴、識別点を取りまとめた。

アライグマ



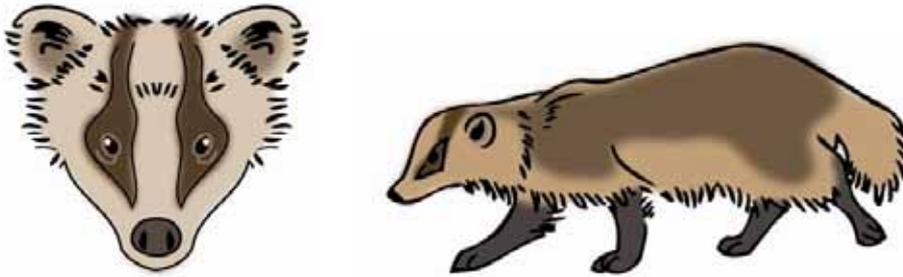
- 眉間に黒い筋がある
- ヒゲは白く目立つ
- 目の周りの黒いマスク模様は大きく幅広い
- 耳は大きく白い縁取りが目立つ
- 体毛は全体に白っぽい
- 尾は長く（25～30cm程）リング状の縞模様がある
- 足は白い部分が多い
- 歩くときは踵まで地面に付ける

タヌキ （沖縄県を除くほぼ全国に分布）



- 耳は丸く両耳が離れている
- ヒゲは黒く目立たない
- 体毛は全体に茶色っぽい
- 尾は短く（20cm以下）縞模様は無い
- 足はほぼ全体が黒い
- 歩くときはつま先だけが地面に付く

アナグマ (北海道、沖縄県を除くほぼ全国に分布)



- 顔は鼻づらにかけて細長い
- 耳は小さく、あまり目立たない
- 目の周りの黒いマスク模様は鼻から耳に向けて細長い
- 顔から上半身にかけては白っぽい毛で覆われる
- 足は黒い部分が多い
- ずんぐりとした丸っこい体形で、足は短い
- 尾は長い毛に覆われ太いが、縞模様は無い

ハクビシン (一部の府県を除く本州、四国に分布)



- アライグマに比べ体は小さい(体重3kg程度)
- 顔の中央(鼻から頭頂にかけて)白い線がある
- 耳は大きく、良く目立つ
- 足は黒っぽい部分が多い
- 足は短く、体全体が細長い
- 尾は長く、縞模様は無い

【アライグマとその類似種の足跡】

| アライグマ | タヌキ |
|---|--|
|  <p data-bbox="327 548 375 577">前足</p> <p data-bbox="558 548 606 577">後足</p> |  <p data-bbox="933 548 981 577">前足</p> <p data-bbox="1181 548 1228 577">後足</p> |
| <p data-bbox="199 627 630 667">前足 長さ 5.5cm、幅 6 cm</p> <p data-bbox="199 683 758 723">後足 長さ 6.5- 8 cm、幅 5 -6.5cm</p> <p data-bbox="199 739 630 779">➤ 5本の指が長く目立つ</p> | <p data-bbox="805 627 1061 667">前足・後足とも</p> <p data-bbox="837 683 1141 723">長さ 4 cm、幅 3 cm</p> <p data-bbox="805 739 1364 779">➤ 指と肉球の間が狭く、梅花に似る</p> |

| アナグマ | ハクビシン |
|--|---|
|  <p data-bbox="327 1243 375 1272">前足</p> <p data-bbox="566 1243 614 1272">後足</p> |  <p data-bbox="933 1243 981 1272">前足</p> <p data-bbox="1173 1243 1220 1272">後足</p> |
| <p data-bbox="199 1314 454 1355">前足・後足とも</p> <p data-bbox="231 1370 550 1411">長さ 6.5cm、幅 5 cm</p> <p data-bbox="199 1426 742 1467">➤ 鋭い爪が目立ち、5指が並ぶ</p> | <p data-bbox="805 1314 1236 1355">前足 長さ 5 cm、幅 4.5cm</p> <p data-bbox="805 1370 1220 1411">後足 長さ 10cm、幅 4 cm</p> <p data-bbox="805 1426 1173 1467">➤ 踵まで地面に付く</p> |

| ネコ | イヌ |
|---|---|
|  <p data-bbox="343 1870 391 1899">前足</p> <p data-bbox="558 1870 606 1899">後足</p> |  <p data-bbox="957 1870 1005 1899">前足</p> <p data-bbox="1173 1870 1220 1899">後足</p> |
| <p data-bbox="199 1942 454 1982">前足・後足とも</p> <p data-bbox="231 1998 582 2038">長さ 3.5cm、幅 3.5cm</p> <p data-bbox="199 2054 558 2094">➤ 爪の跡は付かない</p> | <p data-bbox="805 1942 1061 1982">前足・後足とも</p> <p data-bbox="837 1998 1308 2038">長さ 4 ~ 6 cm、幅 3.5 ~ 5 cm</p> <p data-bbox="805 2054 1364 2094">➤ タヌキより指と肉球の間が広い</p> |

もう一つの“アライグマ” - カニクイアライグマ -



石井信夫提供

カニクイアライグマ (*Procyon cancrivorus*)は中央アメリカおよび南アメリカ北部原産のアライグマ科動物であり、日本にもアライグマと混ざってペットとして輸入されている可能性がある。現在のところ日本では定着が確認されていない。しかし、定着すればアライグマと同様に、生態系被害や農林水産業被害を及ぼす可能性があるため、特定外来生物に指定されている。外貌はアライグマ

に似るが、体色が全体に黄色っぽく、また体毛が短いために体が細く、尾が長く見える。尾には暗色のリング状模様が7～8本ほど見られる。

(3) 被害の実態

【被害概況】

アライグマによる農作物被害は、近年急激に増加している。平成 15 年度には 1 億円を下回っていた全国での被害金額は、平成 19 年度に 2 億 1 千万円を超え、平成 20 年度もほぼ同程度となっている（図 4-1）。アライグマによる被害の特徴は、被害面積が小さいにも関わらず被害金額が大きくなることにあり、他の中型獣と比較して集中的な被害をもたらすことが伺える（表 4-1）。

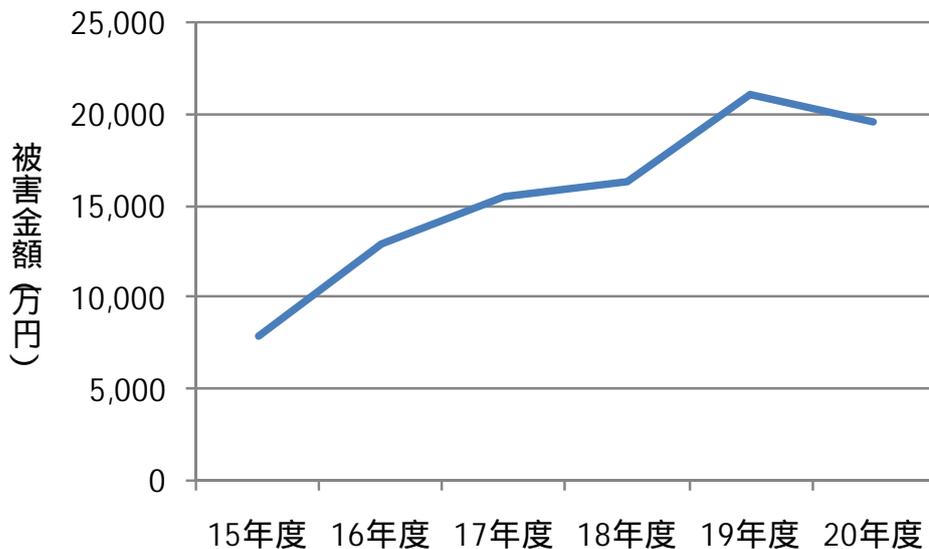


図 4-1 アライグマによる農作物被害金額の推移（全国合計）
（農林水産省生産局農業生産支援課資料より）

表 4-1 アライグマ、ハクビシン、タヌキの平成 20 年度農作物被害面積と被害金額（全国合計）

| 種別 | 被害面積 (ha) | 被害金額 (万円) | 被害金額/ha (万円) |
|-------|--------------|--------------|-----------------|
| アライグマ | 289 | 19,585 | 67.8 |
| ハクビシン | 813 | 31,882 | 39.2 |
| タヌキ | 496 | 21,170 | 42.7 |

（農林水産省生産局農業生産支援課資料より）

【被害作物】

アライグマは前足の指が長く器用であるために、スイカに穴を開けて、中身をほじくり出して食べるような、特徴的な被害形態

を発生させることがある。雑食性で餌の選択肢が広い為に、被害を受ける作物も多様である。

主な被害作物としては、トウモロコシ、ナス、トマト、エンドウマメなどの野菜類、メロン、スイカ、イチゴ、モモ、ブドウ、カキなどの果実類、コイなどの養殖魚、家畜用飼料などの採食被害が知られている。また、牧草に糞尿をかける、ロールパックサイレージやビニールハウスを破壊するといった農作物以外の被害も見られている。



三田市提供



三田市提供

食害を受けたスイカとトウモロコシ

【その他の被害】

アライグマは都市部での家屋への侵入など、生活環境等被害も頻繁に生じさせている。人家の屋根裏に侵入してねぐらとしたり、出産、子育ての場所に利用することもある。屋根裏での糞尿汚染、悪臭、鳴き声の被害のほか、壁や柱に爪跡を付けたたり、時には破壊することもある。こうした被害は神社仏閣などの文化財においても生じることがあり、重大な問題になっている。

生態系被害としては、北海道ではニホンザリガニやサンショウウオ類、神奈川県ではトウキョウサンショウウオなどの在来の小動物の捕食が報告されている。また北海道では、アライグマの侵入によってサギ類が営巣放棄した例などが知られている。



児玉裕美提供

寺院の柱を登るアライグマ

(4) 被害を防ぐ環境管理

アライグマは行動圏が広く、樹上での活動も得意であり、農地等への侵入を防止することが困難な動物である。雑食性であるため、廃棄作物の野積みや収穫しない作物は格好の餌となる。アライグマが地域に定着することを未然に防ぐには、そうした意図しない餌付けに十分注意すべきである。また、アライグマは水辺や藪、森林を主な移動経路としている。したがってアライグマの侵入防止には、そうした場所の周辺での対策が重要となる。



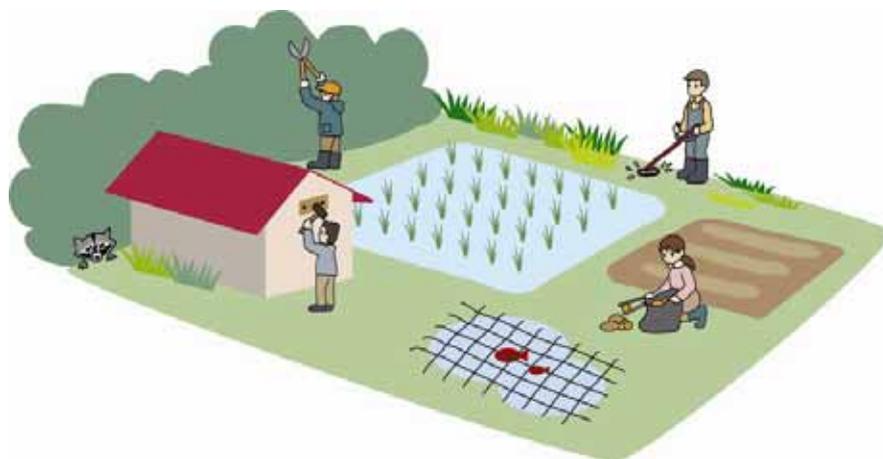
鈴木和男提供

廃棄されたミカンを食べる
アライグマ

【アライグマの侵入を回避する環境管理のポイント】

農地や人家の周辺に廃棄作物や家庭ごみを放置しない
ペットの餌の食べ残し、お墓のお供え物などを野外に放置しない

池などで魚などを飼っている場合には金網で池を覆う
家屋への侵入経路となるような木の枝などは切る
家屋への入り口となるような壁の穴などは塞いでおく
絶対に餌を与えない



アライグマの被害を防ぐ環境管理のイメージ

(5) 侵入防止対策

【電気柵】

アライグマの農地への侵入防止対策では、電気柵による囲い込みが各地で効果を上げている。アライグマ対策の為の電気柵は、地上から 10cm 間隔で、3 ~ 4 本の柵線を設置する方法が一般的である。一部地域では 20cm 間隔で 2 本の柵線を設置する方法でも十分な効果を得ている場合もある。



アライグマの侵入防止用電気柵
柵線 2 本の例

【その他の被害防止対策】

果樹などの被害を防ぐ方法として、根元周辺に有刺鉄線やトタン等を撒きつけ、登らせないようにする対策が取られることもある。また、収穫直前のトウモロコシにビニールテープを巻きつけ、アライグマが取りにくくする方法も知られている。しかしこうした方法は手間がかかる上、その効果については明らかではない。

(6) 捕獲の方法

【はこわな】

はこわなは現在最も多用されているアライグマの捕獲方法である。アライグマ捕獲用のはこわなとしては、中型哺乳類用の金網製のものが一般的である。わなの大きさは高さ 30cm、幅 27cm、奥行き 80cm 程度のものがよく用いられている。ただし、大型個体の捕獲には、より大型のわなが望ましい。



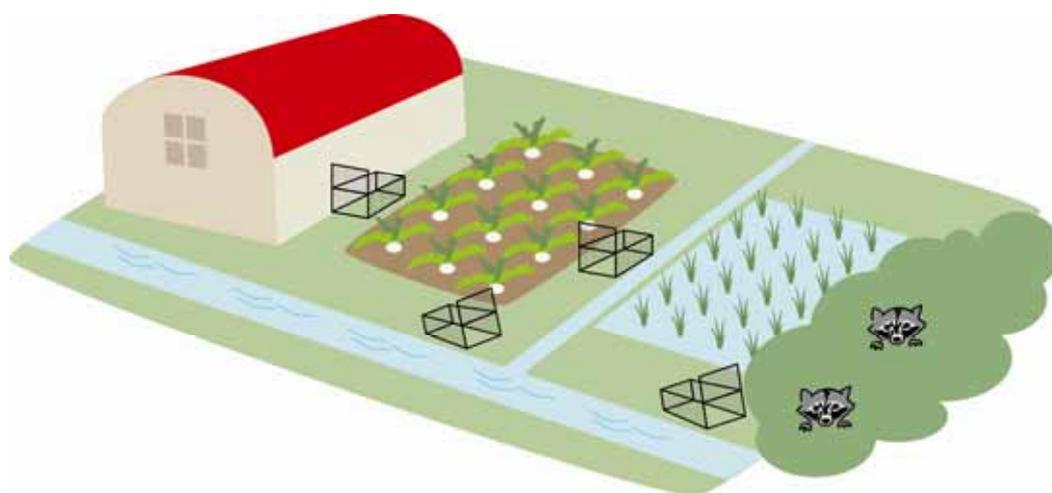
アライグマ捕獲用はこわな杭で固定し、アライグマによって横転されないようにしている

設置場所

わなの設置場所は食痕や足跡などの痕跡がある以下のような場所が良い。

- アライグマが集まっている場所
- 河川、用排水路などの水辺の近く
- 水辺から農地への移動経路沿い
- 農地や作業小屋、畜舎などの外縁

これらの場所で、できるだけ直射日光の当たらない平らな場所を選ぶ。



アライグマ捕獲におけるわな設置適地のイメージ

餌

アライグマは甘みのある餌に誘引されやすい。現在多用されているのは甘みのあるコーン菓子や揚げパン、果物などである。ただし、これらの餌はアリなどの昆虫やネズミ類などの小動物による持ち去りが生じやすいので注意が必要である。魚や肉などはネコやタヌキなどの錯誤捕獲が起こり易いので避けた方が良い。周辺で生産している農作物を餌に使うことは被害を誘発しかねないので避けるべきである。わなの入り口付近にも餌を撒いておくことで、わなに侵入しやすくすることも有効である。



はこわなに捕獲された
アライグマ

【その他の捕獲法】

エッグトラップ

北海道など一部の地域では、エッグトラップが使用されている。エッグトラップ (Egg TM Trap, <http://www.theeggtrapcompany.com>) は卵型のわな (15 × 10cm の楕円球) に前足を突っ込むことで作動し、前足を固定して捕獲するものである。その構造から前足が器用なアライグマ以外の中型哺乳類は捕獲されにくく、錯誤捕獲が少ないことが利点である。ただし、一般に捕獲効率のはこわなよりも低く、設置の際や捕獲個体をわなから外す際に専用の工具が必要な事が難点である。エッグトラップは外来生物法に基づく防除の確認・認定を受けた防除実施計画に記載されているか、又は鳥獣保護法に基づく許可を受けている場合は使用することができる。



エッグトラップに捕獲された
アライグマ